



▲左から小林さん、小川さん、大西さん、吉田さん、鳥海さん

人権ポスター表彰 小・中学生5人が受賞

8月23日、市民会館で開催した「人権文化をすすめる市民のつどい」で人権ポスターの表彰式を行い、市内小・中学生の応募総数222点の中から選ばれた5人を表彰しました。

【最優秀賞】 鳥海菜緒さん（九会小2年）

【優秀賞】 吉田斗夢さん（善防中2年）

【教育委員会賞】大西那奈実さん（富田小6年）、小川舞花さん（北条中2年）、小林葉奈さん（北条中2年）

夏休み産業ツアー モノづくり現場を見学

7月30日と8月6日に、市内の優れたモノづくり企業を巡る「夏休み産業・観光ツアー」が開催されました。小・中学生と保護者計72人が参加し、各企業の製造現場の見学やモノづくり体験などを満喫。参加者は地元の優れた技術の魅力を肌で実感し、学びと発見にあふれる貴重な夏休みの思い出となりました。



▲伊東電機（株）でコンベヤ用モーターローラのデモンストレーションを見学している参加者

農林水産大臣賞に岡田さん 4度目の栄誉

9月1日、岡田毅さん（下宮木町）が、第58回兵庫県ハウストマト立毛品評会で4度目となる農林水産大臣賞を受賞しました。岡田さんは「『加西とまと』は長い歴史があります。土づくりを大切に食味を上げてきました。さらに美味しいトマトを作り、皆さんに喜んでいただけるよう頑張ります」と今後の意気込みを語りました。



▲表彰状を手にする岡田さん夫婦

市民のつどい開催 多文化共生の対話学ぶ

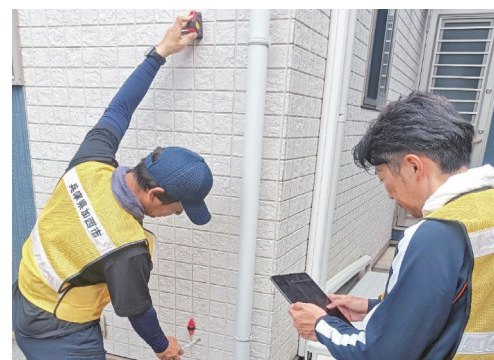
8月23日、「人権文化をすすめる市民のつどい」を市民会館で開催しました。障がい者ダンスチームの手話ダンスで幕を開け、芸術文化観光専門職大学の平田オリザ学長が多文化共生における対話の重要性を講演。参加者からは「言葉にして分かり合う大切さを感じた」「日々の生活を見つめ直す機会になった」などの声が寄せられました。



▲「わかりあえないことから」と題し、多文化共生社会におけるコミュニケーションの重要性について講演する平田学長

令和8年熊本地震 加西市職員を派遣

令和8年7月発生の「令和8年熊本地震」を受け、9月4日から11日まで熊本県宇城市へ加西市職員2人を派遣しました。宇城市では最大震度7を観測し、甚大な被害が発生しました。現地では、被災家屋を1件ずつ訪問し、建物の傾きや損壊状況を丁寧に確認。被災者の生活再建の基準となる被害認定業務に当たりました。今後も、被災地の一日も早い復興を支援していきます。



▲「下げ振り」を使って被災家屋の傾きを計測する加西市職員（熊本県宇城市）

中学硬式野球 平石さんにスポーツ賞賜金

平石愛翔さん（善防中3年）に文化・スポーツ振興賞賜金を贈呈しました。平石さんは「2026からだ接骨院カップ第52回全日本選手権関西大会」で優勝し、令和8年7月開催の全日本選手権大会に出場しました。平石さんは大会を振り返り「変化球でストライクを取る強みを生かし、良い結果につながられて良かったです」と話しました。



▲表彰状を手にする「兵庫フロッグスポニー」所属の平石さん

子どもたちの狂言とプロの技 狂言公演

8月11日、市民会館で「野村萬斎狂言in加西」（加西こども狂言プロジェクト・かさい根日女狂言グループ主催）が開催されました。かさい根日女狂言グループの子ども達が、播磨国風土記の物語「根日女」を熱演したほか、野村萬斎氏らプロによる狂言公演も行われ、地域の歴史と伝統芸能の魅力が詰まった豪華な2部構成の舞台となりました。



▲新作狂言「根日女」で力いっぱい演技するかさい根日女狂言グループの子どもたち

加西病院へブドウ贈呈 医療現場にエール

8月12日、加西病院サポーターの会（吉田廣会長）は、同病院の医師や医療スタッフへ感謝と応援を伝えるため、ブドウと激励のメッセージを贈呈しました。吉田会長は「少しでも力になり、病院の皆さまには元気に過ごしていただきたい」とエールを送り、加西病院生田肇院長は「いつも温かいご支援をいただき心から感謝しています」と応えました。



▲ブドウを手渡す熊谷佳代副会長（中央右）と受け取る生田院長（中央左）ら

プラレール体験 巨大レイアウトで交流

8月8日、アスティアかさいで鉄道玩具「プラレール」で遊ぶイベント（ねひめホール運営会議主催）が開催されました。寄付で集まった大量のレールと広々とした会場を生かし、子どもたちは自宅では作れない巨大レイアウトを次々と完成させました。主催者は「子どもが夢中で楽しむ姿を見られた。親子での参加により地域交流の拠点にもなれた」と話しました。



▲親子でプラレールのレイアウト作りなどを楽しむ参加者

農地パトロール出発 適正利用と保全推進

8月25日、市役所で市農業委員会（吉田一男会長）は、「農地パトロール出発式」を行い、農業委員や農地利用最適化推進委員らが集いました。本パトロールは、市内の農地を未来へ守り生かすため、利用状況の把握や適正な活用を進める大切な取り組みです。8月27日から10月6日までの期間中、委員らが地域を巡回し、現場確認を実施します。



▲農地パトロールの出発式に集う農業委員ら